京都大学人文科学研究所新型コロナウイルス感染防止などの行動自粛にともなう共同利用・共同研究拠点企画報告書

1. 国際研究ミーティングの名称
オンライン・シンポジウム「中国学研究と翻訳」およびランチタイムトーク「グローバル化と翻訳の意義」

2. 主宰責任者氏名
小野寺史郎（埼玉大学准教授）・森川裕貫（関西学院大学准教授）
所内（申請者） 石川禎浩（京都大学人文科学研究所教授）

3. 開催日時等およびプログラム
①日時：2020 年 10 月 31 日 10:30～12:15
場所：京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室を中継会場とし、ZOOM を用いてオンライン開催。
演題等：「"日本語は難しいでしょう"と言われて」、「どのような訳書を読者に届けるか」、「四面雲山皆入眼、万家煙火総関心」
講演者：ジョシュア・フォーゲル（カナダ ヨーク大学教授）、伊藤真（東洋大学非常勤講師）、楊韜（佛教大学准教授）
②日時：2020 年 10 月 31 日 12:30～14:25
場所：京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室を中継会場とし、ZOOM を用いてオンライン開催。
演題等：「翻訳からグローバル化を考える」、「英書翻訳の新たな可能性」、「グローバル時代における日中翻訳」
講演者：ジョシュア・フォーゲル（カナダ ヨーク大学教授）、伊藤真（東洋大学非常勤講師）、楊韜（佛教大学准教授）

4. 概要（400 字程度）
オンライン開催の利点を生かして、シンポジウム「中国学研究と翻訳」およびランチタイムトーク「グローバル化と翻訳の意義」のいずれについても、中国・アメリカから多数の研究者の参加を得ることができ、大変な盛会となった。時差や接続等の問題が当初懸念されたが、当日はプログラム通りに開催することができた。グローバル化に対応した学術・研究が求められる一方で、従来の国際交流を支えてきた翻訳の意義についてはこれまで十分に検討されてこなかった。日本の中国研究の英語圏への紹介において多大な貢献をしてきたフォーゲル氏、英書の日本語訳で多数の成果をものされている伊藤氏、日本の研究成果の中国への紹介を積極的にされている楊氏の報告は、この点を考えるものとして意義深いものであった。報告後には、オーディエンスも交えて活発な対話がなされ、研究成果の国際発信のありかたについて意見が共有された。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）
①<u>学外</u>
李真（江蘇省常州工学院講師）、ジョシュア・フォーゲル（ヨーク大学教授）、蒲豊彦（京都橘大学教授）、伊藤真（東洋大学非常勤講師）、李楽（大学院生）、高莹莹（中国社会科学院近代史研究所編集部）、彭剣（華中師範大学副教授）、森川裕貫（関西学院大学准教授）、陳瑶（厦門大学助理教授）、小野寺史郎（埼玉大学准教授）、島田美和（慶応大学講師）、安东强（中山大学副教授）、荻恵里子（京都府立大学研究員）、久保亨（信州大学特任教授）、周俊（早稲田大学研究員）、ニコロヴァ・ヴィクトリヤ（東京大学院生）、姚忻如（NH 福岡局放送部）、陳健成（東京大学研究員）、張月（二松学舎大学院生）、範麗雅（中国社会科学研究院客員教授）、高柳信夫（学習院大学教授）、韓燕麗（東京大学准教授）、田中剛（帝京大学准教授）、前田環（美術史家・米国シアトル在住）、荆瑶（山西大学講師）、楊韜（佛教大学准教授）、関暁紅（中山大学教授）、菊地一隆（愛知学院大学名誉教授）、狭間直樹（京都大学名誉教授）
<u>学内</u>

江田憲治（人間環境学研究科教授）、小島泰雄（人間環境学研究科教授）、谷雪妮（非常勤講師）、中島大知（学部生）、巫靚（非常勤講師）、李ハンキョル（院生）、比護遥（京都大学院生）

所内

石川禎浩、永田知之、村上衛、菊地暁、都留俊太郎、瞿艶丹（人文学連携研究員）

②学外

李真（江蘇省常州工学院講師）、ジョシュア・フォーゲル（ヨーク大学教授）、伊藤真（東洋大学非常勤講師）、李楽（大学院生）、高莹莹（中国社会科学院近代史研究所編集部）、彭剣（華中師範大学副教授）、森川裕貫（関西学院大学准教授）、陳瑶（厦門大学助理教授）、小野寺史郎（埼玉大学准教授）、安东强（中山大学副教授）、楊韜（佛教大学准教授）、関暁紅（中山大学教授）、菊地一隆（愛知学院大学名誉教授）

学内

谷雪妮（非常勤講師）、李ハンキョル（院生）

所内

石川禎浩、村上衛、都留俊太郎、瞿艶丹（人文学連携研究員）

6.助成金の使途等

申請書の通り。

7.その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）

特に無し。

別 紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内（法人内）	4	12 (3)	( )	( )	7 (3)	2 (0)	( )	( )	( )	( )	( )
国立大学	3	7 (2)	( )	( )	2 ( )	2 (1)	( )	( )	( )	( )	( )
公立大学	1	1 (1)	( )	( )	1 (1)	( )	( )	( )	( )	( )	( )
私立大学	9	9 (2)	( )	1 ( )	2 ( )	3 (2)	( )	( )	( )	( )	( )
大学共同利用機関法人		0 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
独立行政法人等公的研究機関		0 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
民間機関	1	1 (1)	( )	1 (1)	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
外国機関	10	19 (10)	( )	4 (2)	3 (2)	2 (1)	( )	( )	( )	( )	( )
その他	1	2 ( )	( )	1 (1)	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
学外 計		39									
計	29	51 (19)	( )	7 (4)	15 (6)	9 (4)	( )	( )	( )	( )	( )

【その他の参加状況】

※本務所属が海外の研究機関である研究者
※( )内には、女性数を記載
※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。
※外国人、若手研究者（40 歳未満）、若手研究者（35 歳以下）、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。
※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。
※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。
※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載
※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください
　国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した：受入人数2人、延べ人数6人